

※イラストの指文字は相手から見た形です。

手話も 覚えてみよう

vol.40

やってみよう！～身近な言葉の手話～
普段使う言葉を手話でやってみましょう。

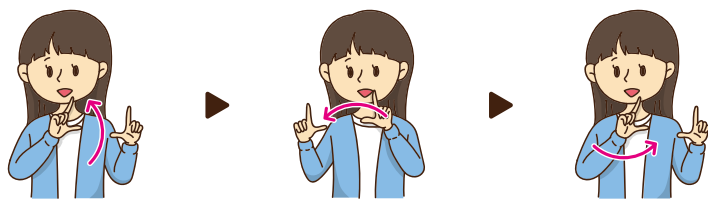
○災害時の避難所での生活

避難所はアナウンスなど「耳からの情報」で動くことが多く、聴覚障がい者にとって情報が届きにくい場所です。トイレの混雑や食事の案内などの情報が正しく伝わらないと、孤立や不安に繋がります。

市は、福祉避難所にホワイトボードや筆談ボードなどを常備し、大切な情報を一目で分かるピクトグラム（図記号）で掲示するなどの工夫をしています。

避難所などで困っている人を見かけたら、メモや筆談で伝えてあげてください。皆さんのちょっとした気遣いが、誰かの大きな安心になります。

生活(暮らし)



胸の前で両手の親指と人差し指を伸ばし、同時に円を描く。

手話動画

過去に掲載した手話の動画は、
YouTube（市公式チャンネル）で
見るができます。



問い合わせ先 福祉支援課障がい福祉担当 ☎(584)1127 📠(584)1154

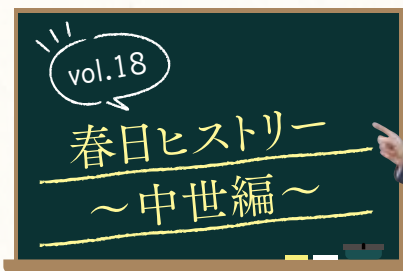
平安時代から戦国時代、貴族や寺社が所有する土地は「荘園」と呼ばれ、農業で得られた収穫物が領主に納められました。市内では、白水庄・小倉庄・須玖村の3カ所が中世の荘園です。

白水庄は京都の石清水八幡宮領の荘園で、現在の上白水地区一带に当たります。その中心地の中白水遺跡では、当時の在地領主の居館跡が見つかりました。

半町四方（一辺約50m）の居館は、建て替えを繰り返し、13～17世紀にかけて存続しました。居館跡からは、日常生活で使われた大量の土師器や陶磁器

奴国の丘歴史資料館 市報DE講義

名誉館長の



たけす 純一 名誉館長
(福岡大学名誉教授)

問い合わせ先 文化財課整備活用担当 ☎(501)1144 📠(573)1077

などが出ました。居館の周囲には、幅2～3mほどの溝が巡っており、敷地を区画し、水田へ水を供給する用水路の役割も果たしました。

当時の居館は、単なる住まいではなく、荘園を管理し、周辺の農地や人々を統括する拠点でもありました。また、調査ではそれより古い12世紀代の屋敷地も確認しました。一辺約30m四方の屋敷地からは、2間×3間以上の掘立柱建物跡や、大量の土師器を埋めた土坑などが出ました。周囲には、鉄刀や陶磁器などを副葬した屋敷墓も見つかりました。

上白水地区には、中世の板碑や三重塔が残っており、遺跡のすぐ近くには白水八幡宮が鎮座します。白水庄の中心をなす中白水遺跡は、人々の祈りや信仰が息づく場所でもありました。

「白水」の地名は、豊かな湧水や清らかな流れに由来します。遺跡の調査成果からも、この地域は豊富な水に恵まれ、水田耕作に適した環境でした。こうした水資源が、白水庄の発展を支えました。



▲発掘された居館跡